

## 令和3年白老町議会人口減少に対応する政策研究会会議録

令和3年 1月27日（水曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時49分

---

### ○会議に付した事件

協議事項

1. 地域おこし協力隊との懇談について（1月13日）の感想、意見、まとめ
- 

### ○出席委員（8名）

座 長	大 淵 紀 夫 君	副 座 長	佐 藤 雄 大 君
委 員	西 田 祐 子 君	委 員	氏 家 裕 治 君
委 員	久 保 一 美 君	委 員	長 谷 川 か お り 君
委 員	貳 又 聖 規 君	委 員	森 哲 也 君

---

### ○欠席委員（なし）

---

### ○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	高 橋 裕 明 君
主 査	小 野 寺 修 男 君
主 任	村 上 さ や か 君

## 人口減少に対応する政策研究会（第12回）

### 【調査事項】

事務調査：人口減少に対応する政策研究「若者定住」について

#### 1. 地域おこし協力隊との懇談について（1月13日）

- 長谷川委員 協力隊員が定住にこだわらないことを知った。柔軟な考え方をもち、行政とタッグを組んで政策を考えていく必要があると思った。
- 久保委員 白老町に長く住んでいて身近すぎて気づかないが、町外の人には様々なものに魅力を感じている。
- 貳又委員 行政側の課題として、まちが協力隊の橋渡しやコーディネーター役となるつながりが重要である。OB隊員・OG隊員が現隊員を支援する仕組みが必要である。
- 氏家委員 自分たちの考え方を見直す有意義な懇談であった。隊員からは自分たちの活動を振り返る機会になったと感想があった。隊員らは白老だけにとどまらず、広い視野で考えて活動している。その人たちの可能性を狭めない支援が望まれる。人口減少問題だけを捉えていてよいのかと感じた。
- 佐藤副座長 手塚日南人氏から人と人とのつながりが関係人口を増やし、経済発展を生むとの話があった。菊地辰徳氏は町民と同等に住民サービスが受けられる第2住民登録の話をしていて。町は第6次総合計画で同様の制度を考えている。議会としてもその部分を捉えたい。
- 西田委員 協力隊は思う以上に行動範囲が広い。人が人を呼ぶ。まちに来るきっかけは人である。協力隊について議員があまり理解していなかったのではないか。自由に活動できる環境づくりに議会が後押しする必要がある。関係人口には積極的な取り組みが必要だと感じた。このような懇談の機会を増やすことが重要である。
- 森委員 町のイベントをきっかけに来町した人が多く、関係人口に関するものでつながりが生まれるのだと思った。
- 大淵座長 まちづくりの根本を変えざるを得ない。政策研究会としての今後の考え方や政策への生かし方はどうあるべきか。これからの方向を含めて町に提案できるものは何だろうか。
- 西田委員 厚真町でまちづくりのため協力隊を募った結果、協力隊から様々な面でノウハウを得たとのことである。協力隊の活動が白老の力になるように、議会から提言することが重要である。
- 貳又委員 厚真町はコンサルを活用している。いかに行政が隊員の力を生かせる環境をつくれるか。隊員になりたいという人が全国的に増えている。現隊員の活動や成功事例を全国に発信していく必要がある。
- 大淵座長 早く実施する必要があるものは、最終報告まで待たず、途中で町理事者懇談などを開催して、町に出してよいのではないか。
- 氏家委員 第2住民登録のように、白老に関わりを持つ人にまちは何ができるか。ほかのまちの真似ではない、白老ならではの取り組みが関係人口につながる。白老町が求める協力隊とは何であるかを明確にした上での募集をするべきではないか。これまでの検討の中間報告しておいてはどうか。
- 佐藤副座長 第2住民登録は、施設利用や広報配布など、各種サービスを受けられるものとして始めることが考えられる。教育については白老の特色や強みを生かしていくべきである。白老は芸術活動が盛んであるから、飛生アートと懇談してはどうか。
- 貳又委員 町の隊員募集が始まった。ほかのまちではミッションを出して募集をしているところもある。白老町にこんな協力隊が必要と考えることも政策立案の一つである。塾の講師を募集するところもある。全国の協力隊の事例を一度確認してはどうか。
- 西田委員 協力隊の活動は町が隊員にミッションで求めるものなのか。総務省によると地方を活性化するために都会から移住することを記している。隊員にとってはまちへの入りやすさが重要である。
- 氏家委員 総務文教常任委員会ではスポーツ振興に取り組み、町のスポーツの魅力発信をする人材が必要として、まちの課題が明らかになった。そこを補完するため協力隊の力を借り、その上で人と人がつながるようにするのも一案ではないか。

- 西田委員 御用聞きわらびやぬくもりの里ふれあいは運営が大変である。様々な分野での活躍が期待される存在として、隊員にノウハウを学んでもらい、全国へ広げてほしい。
- 氏家委員 まちとしてこのような隊員が必要であると募集して、制度上のハードルを乗り越え、困難な部分をクリアしていくような活動になることが望まれる。
- 大淵座長 住民意見を担当課が聞き取り、協力隊へのニーズをつかんでいくようにするべきである。
- 西田委員 各課からの声が上がりにくい。行政側にも考えてもらい、協力隊について考え直すよい機会である。それはまちの課題とつながっていく。町側との意見交換形式での懇談はどうか。
- 貳又委員 協力隊の活動はステージが進んでいる。協力隊に関する事で担当課の業務が増えがちである。支援やケアの一部分をOB隊員・OG隊員に担ってもらえると、現隊員の活動に役立つのではないか。
- 氏家委員 政策研究会の検討を踏まえて協力隊と懇談して、様々なことに気がついた。まちにより隊員への関わり方が異なる。町理事者との懇談の前に課題整理をしてはどうか。
- 大淵座長 ここまでの検討の整理をするために、次回はグループワークをする予定である。その後に町理事者との懇談ができればと思うがどうか。(一同：よろしい。)協力隊の活動事例は用意してボックスに入れる。

## 2. 移住定住のアンケート調査について

- 大淵座長 電話でアポイントを取って、アンケート用紙配付に訪問し、月末に回収しに行く。2度訪問する。2月中に回収ができるよう配付を済ませるようにしてほしい。

## 3. 年間活動計画について

- 大淵座長 随時検討体制をつくって実施していくため、取り組みたいことがあれば申し出てほしい。中間検討(グループワーク)→町理事者との懇談→アンケート集約・分析の順に進めていく。